



校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ④

令和2年6月26日（金）

「みんな違うのがあたりまえ」

新型コロナウイルスの感染拡大は、少し落ち着きを見せてはいますが、相変わらず東京都では数十人単位で新規感染者は続いていますし、福岡市でも新規感染者が報告されるなど、まだまだ予断を許さない状況です。私たちも「新型コロナウイルス感染は決して終息した訳ではない！」というこの状況を正しく認識し、「新しい生活様式」をしっかり守っていかなければなりません。

校内は言うまでもなく、特に公共の場や公共交通機関では、ただだけではわからなくても、基礎疾患がある人や高齢者をはじめ、新型コロナウイルス感染を私たち以上に非常に危惧してある様々な人がおられます。このことを念頭において、私たちは公共の場や公共交通機関では厳密に「新しい生活様式」を守ることを徹底していきましょう！

新型コロナウイルス感染拡大防止のための「非常事態宣言」が出されている時に、ルールを守って営業している店舗にまで自粛を強いたり、物理的に攻撃する、いわゆる「自粛警察」と言われる人々のことが話題になりました。この「自粛警察」は、「何事も目立たず、周囲と同じでなければならない。」という、いわゆる「同調圧力」と言われる日本人特有の！？現象の一つです。第二次世界大戦中のわが国にもこうした現象が見られました。

これからみなさんが生きていく社会は、外国人をはじめ、多様な文化やバックボーンを持つ人々と「共生」することは避けられません。そんな社会では、自分と異なる人や周りとは違う人を否定したり、排除したりしては、ただ軋轢を生むだけで、よりよく誰もが幸せに生活することは決してできません！

そもそも私たちは、育った環境も家庭の状況、経済状況もみんな違います。ましてや性格やものの考え方、嗜好（好き嫌い）は違うことが当たり前です。誰一人として同じ人などいないのです。しかし、その当たり前のことが「同調圧力」によって忘れられてはいないでしょうか？

この「同調圧力」が「いじめ」や「差別」等を引き起こしているのだということを、私たちは改

めて気づき、考えなければなりません！

もちろん、社会生活を行う上では、それぞれの違いを認め、受容しながらも、「協調」することも必要であることは言うまでもありません。しかし、「協調する」と「同調圧力」とは決して同じ意味ではありません！

本校では「みんな違うのがあたりまえ」という大前提に立ち、みなさんたち一人一人の力で宗高・宗中で学ぶすべてのみなさんが、例外なく「明るく、楽しく、いきいきと。」生活できる学園を創っていこうではありませんか！！

最後に著名な料理研究家である土井善晴さんが、「料理することの本当の意味」の中で語っている次の言葉を、みなさんと共に噛み締めてみたいと思います。

「日本社会ほど『人それぞれ違う』という当たり前のことが認められていない世界はない。多様化の時代と言われるが、現実決して多様化していない。むしろ、近年急速に単純化していると思う。」

「自分と違う考えを持っている人が気になるのは、ほんまに弱い人です。お行儀の良い人は、いらんこと言わないで黙っているもんです。」

「多様性を求めるのは、世界の流行(はやり)でもなくて当たり前のことです。他者を認めることです。考え方は色々あって当たり前で、自分と違うことをしている人を見つけても、それが迷惑にならないければ、『自分は嫌い』だとか否定するようなことをなくすことです。」

「多様性は、差異(差違)をおもしろがるもの、違いを発見して喜ぶことです。それは全ての人間を求めることです。オリジナリティ、個性、独創性、創造なんてことは、多様性を単純化した社会には育まらないんです。」

来週は、今年度最初の定期考査になる1学期期末考査1週間前になりますね。

実は・・・この土日(6/27、28)の過ごし方が、期末考査の結果を大きく左右します！！

まずは、学習計画をしっかりと立て、試験勉強モードに入ってください！

校長 深瀬 信也